知ってください ヒトパピローマウイルス(HPV)と子宮頸(しきゅうけい)がんのこと

～ あなたの未来のために今できること ～

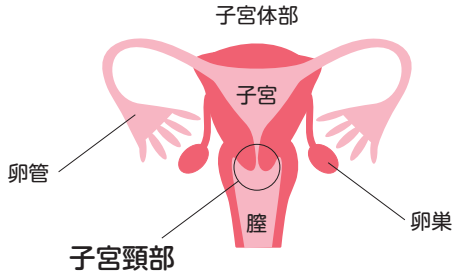
国立がん研究センター がん対策研究所
National Cancer Center Institute for Cancer Control

子宮頸がんってどんな病気なの？

● ウイルス感染が原因で、誰でもなる可能性のあるがんです

子宮頸がんは、女性の子宮の入り口付近（子宮頸部）にできるがんで、主に性交渉によるHPV（ヒトパピローマウイルス）感染が原因です。HPVウイルスは珍しいウイルスではなく、多くの女性が人生で一度は感染する可能性があると言われています。ただし感染したからといって必ずがんになるわけではありません。

● 子宮頸がん



日本では20～40代の女性を中心に毎年約1万人の方が新たに子宮頸がんと診断され、年間約3,000人の方が亡くなっています。また、子宮頸がんの治療では子宮摘出などの手術や放射線治療が必要となり、出産することができなくなる方も少なくありません。

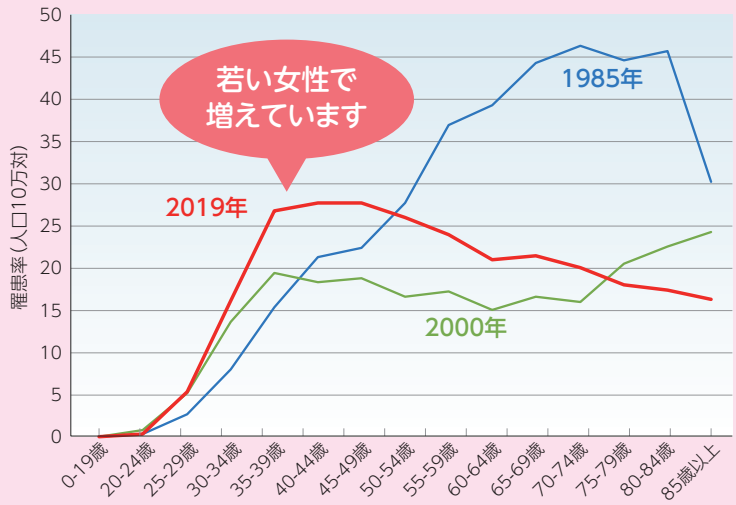
● 子宮頸がんの治療について

前がん病変（がんの一歩手前）や初期がんで発見できれば、子宮頸部の一部を切除するだけで子宮のほとんどを残すことができ、治療後に妊娠・出産も可能です。進行してしまうと子宮や周辺臓器も切除したり放射線をあてたりすることになり、化学療法（抗がん剤治療）が同時に行われる場合もあります。

● 近年では若い女性で多くなっています

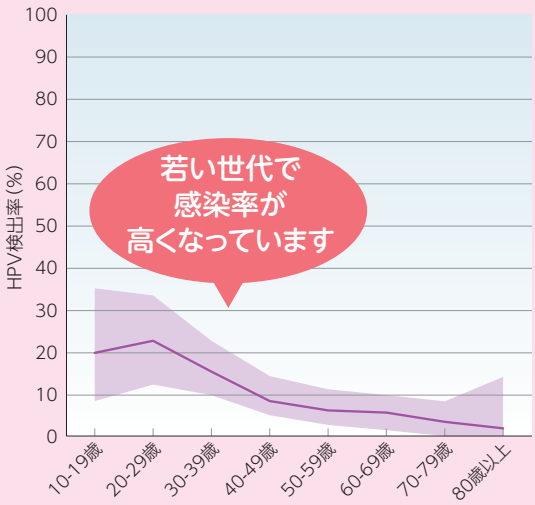
子宮頸がんは、以前は50代以上の女性がなることが多かったのですが、近年では20～40代の女性がなることが多くなってきています。まだ若いからと安心はできません。

● 子宮頸がん年齢階級別罹患率の推移



出典：国立がん研究センター「がん情報サービス」（全国がん登録・地域がん登録）
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/data/dl/index.html

● 細胞診が正常の女性の年齢別HPV検出率



網掛け部分は各推定値の95%信頼区間を表す。

出典：Palmer, M., et al. Genotype prevalence and age distribution of human papillomavirus from infection to cervical cancer in Japanese women: A systematic review and meta-analysis. Vaccine 40, 5971-5996 (2022)より作図

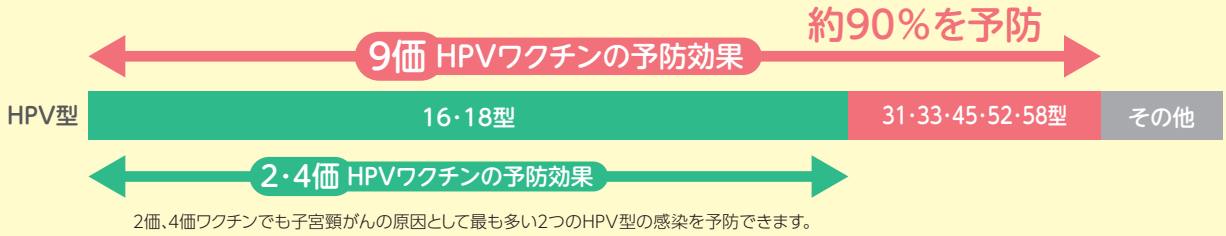
子宮頸がんはワクチンで予防することができます

● 9価ワクチンの接種で子宮頸がんの9割以上を予防できます

子宮頸がんは、HPVワクチンの接種により予防することができます。他のワクチンと同じように安全性と有効性が認められています。

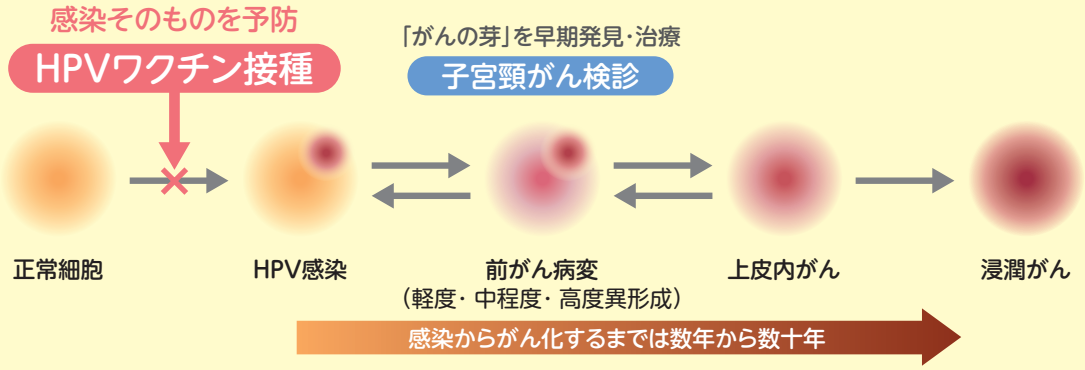
2023年度から開始された「9価HPVワクチン」はすでに世界中の国と地域で承認されており、子宮頸がんの原因となるHPV型の9割近くの感染を予防できます。

● 子宮頸がんの原因HPV型とワクチンの予防効果



2価、4価ワクチンでも子宮頸がんの原因として最も多い2つのHPV型の感染を予防できます。

● 子宮頸がんの進行とHPVワクチン接種の予防効果

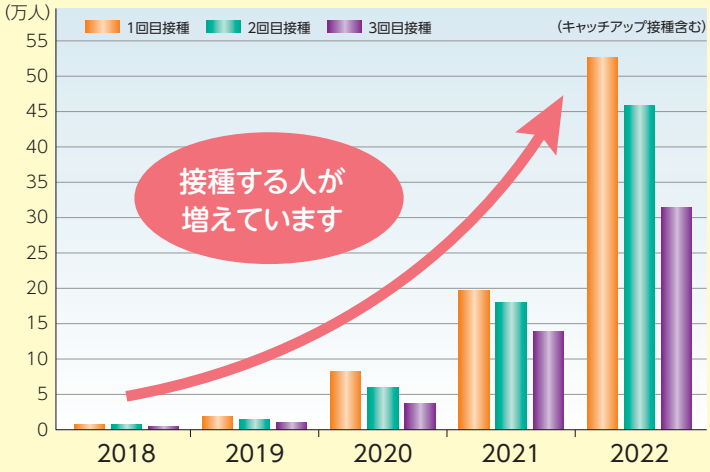


● 日本でも年々、HPVワクチンを接種する人が増えています

HPVワクチン接種に対する理解が深まり、日本でも接種する人が年々増えています。

2013年6月から積極的推奨が控えられていましたが、厚生労働省の審議会で安全性について特段の懸念が認められないことが確認されたことを経て、2022年4月より積極的推奨が再開され、さらに多くの方がワクチン接種を受けるようになりました。積極的勧奨が控えられていた期間に機会を逃した女性が無料で受けられるキャッチアップ接種の利用者も増えています。

● 近年のHPVワクチン定期接種被接種者数



第94回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、
令和5年度第5回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会(合同開催)資料
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000208910_00061.html

HPVワクチンの接種対象者とスケジュールについて

● HPVワクチンの定期接種の対象となる方

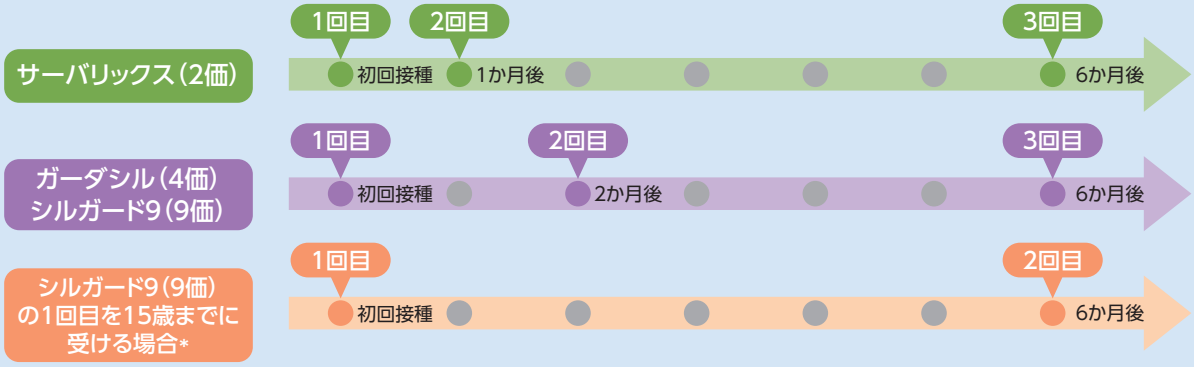
小学校6年生～高校1年生 相当の女子

1997年4月2日～2007年4月1日生まれの女性に対して、
2025年3月末まで、公費でのHPVワクチン接種が提供されています（キャッチアップ接種）。

対象者は、定期接種として**無料（公費助成）**で受けられます。

● 同じワクチンを原則3回接種してがんを予防します

日本では小学校6年生～高校1年生相当の女性を対象に、2価・4価・9価HPVワクチンの定期接種が実施されています（原則として3回接種。2023年から9価の1回目を15歳までに受ける場合は2回接種）。



接種スケジュールは、開発試験に基づいて設定されています。（2022年12月時点）

*2023年度から、シルガード9（9価ワクチン）の1回目の接種を15歳になるまでに受ける場合は、合計2回接種（≧5か月間隔）が行われます。

● 接種の手順

自治体のHP等でHPVワクチンの予診票の受け取り方を確認します ▶ 医療機関等へ連絡してワクチン接種を申し込みます ▶ 医療機関から指示された書類を持参して受診。

男性のワクチン接種について

アメリカ、オーストラリア、カナダ、ノルウェーなどでは、男性もHPVワクチンの対象になっています。男性接種によって男性の咽頭（のど）、肛門、性器のがんが予防できるだけでなく、女性への感染を防ぐことで子宮頸がんの予防にもつながることが期待されています。日本でも4価ワクチンの9歳以上の男性への接種が承認されており、定期接種化を検討することが提案されています。

どうして10代での接種開始が有効なの？

● ワクチン接種により非接種者の1/20まで発症リスクを抑えられます また、早い年齢で接種するほど高い効果が得られます

HPVワクチンの接種は早い年齢で始めるほど予防効果が高く、年齢が高くなるほど予防効果が弱くなります。また、HPVワクチンには、すでに感染したウイルスを排除する効果はありません。

HPV自体はありふれたウイルスで、多くの方が感染する可能性がありますので、HPVに感染する機会の少ない早い年齢でのワクチン接種が有効なのです。

ワクチン接種後に起こりうる症状について

● HPVワクチン接種にもリスクはあります

HPVワクチンの接種にも他のワクチン接種と同様に接種後にさまざまな症状が出る可能性があります。注射の痛みや接種したところの腫れなど局所的なもののほか、接種後に頭痛や発熱などが起きることもあります。接種後しばらくは安静を保つ必要があります。

過去に予防接種で腕のしびれや痛みが長引いたりアレルギー反応が起きたりした人は、接種の前に医師に相談してください。

接種した場所のはれ・痛み（局所反応）

接種により高い頻度で起こる症状。ほとんどが数日以内に改善します。

全身反応

局所反応より頻度は低いものの、からだ全体の症状が一定程度起こります。頭痛、発熱、吐き気、めまい、疲労感などが比較的頻度が高い症状です。

予防接種ストレス関連反応（ISRR）

接種に対する不安や痛みなどのストレスにより、過呼吸やめまい、痛み、不随意運動、しびれ、手足の動かしにくさなどの症状が生じる場合があります。これらの症状はワクチンの種類とは関係なく、ワクチン接種への不安や注射針への恐怖や痛みなどによって起こることが知られています。予防のためには、医療者が本人と保護者に丁寧な説明を行い、信頼関係の下で接種することが大切です。

● もし症状が出た場合も診療・相談体制が整っています

もし接種前に不安があったり、接種後に症状が出たりした場合、適切な診療と相談が可能な体制が整っています。不安や症状がある場合は自治体の相談窓口や接種した医師に相談してください。

相談窓口・医療機関などの情報はこちら

HPV予防接種拠点病院整備事業
https://vaccine-care.org/pat.html

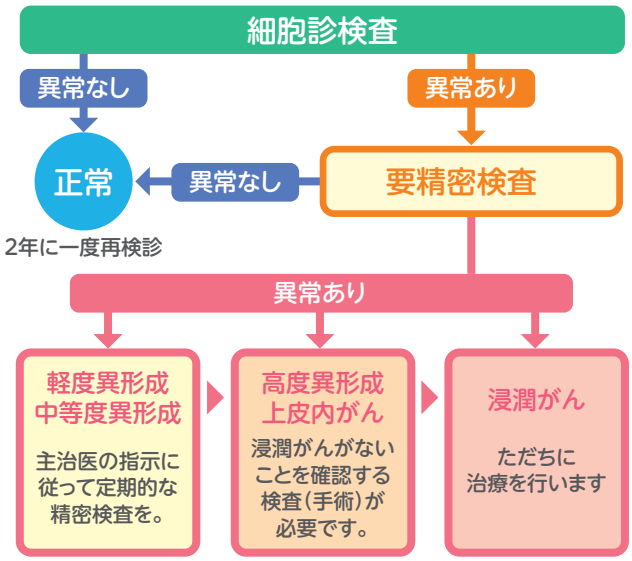
ワクチン接種だけでなく、予防のために検診が大事です

● 検診は20歳から始めます

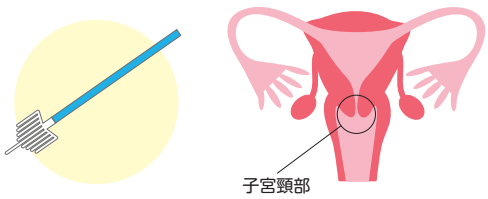
子宮頸がんは初期では自覚症状がない場合が多い病気です。以前は50代以上の女性がかかることが多かったのですが、近年では20～40代の女性がかかることが多くなっています。

子宮頸がん検診は、がんの一歩手前（前がん病変）で発見して、適切な治療によりがんへの進展を防ぐためのものです。初期がん（高度異形成や上皮内がん）の段階で発見できれば子宮を残すこともでき、妊娠・出産も可能です。早期発見のためにも**定期的に検診を受けることがとても重要**です。

● 子宮頸がん検診と治療の流れ



検査は小さなブラシで子宮頸部をこするだけで、痛みもほとんどなくすぐに終了します。
人によりまれに出血する場合がありますので、生理用ナプキンを用意して行くと安心です。月経中は検査が正しく行えませんので避けましょう。



● 不正出血などの自覚症状がある方は、ただちに婦人科を受診してください。

HPVワクチンと子宮頸がん検診に関するQ&A

Q1 HPVワクチンで子宮頸がんそのものを予防できますか？
はい。HPVワクチンの効果は、かつては子宮頸がんの前がん病変を予防する効果のみが報告されていましたが、最近は海外でも日本でも子宮頸がんそのものを予防できることが示されています。

Q2 HPVワクチンの費用はどのくらいかかりますか？
定期接種の対象者（小学校6年生～高校1年生の女性）は無料です。対象年齢を超えていてもキャッチアップの対象者（1997年4月2日～2007年4月1日生まれの女性）は無料です。また、2007年4月2日～2008年4月1日生まれの女性も、2025年3月末まで無料で接種できます。

Q3 高校1年生を過ぎてしまいました。今から HPVワクチンを接種する意味はありますか？
あります。対象年齢を過ぎても、感染機会がすでにあった人でも、これまで感染していない型のウイルスの感染を予防する効果があります。

Q4 HPVワクチンと子宮頸がん検診は両方受けたほうがいいですか？
はい。HPVワクチンにはすでに感染したウイルスを排除する効果はありません。また、ワクチンで予防できない HPVの型に感染する可能性もあります。一度感染したウイルスが再度活性化する場合があることも知られています。HPVワクチンで感染を予防した上で、2年に一度の検診で異常がないか確認することが大切です。

Q5 HPVワクチンと子宮頸がん検診はどこで受けられますか？
いずれも、自治体から委託を受けている医療機関などで受けられます。詳しくはお住まいの市区町村の保健センターや窓口にお問い合わせください。

Q6 子宮頸がん検診の費用はどれくらいかかりますか？
自治体や職場検診、人間ドッグにより自己負担金は異なります。自治体の検診の場合、無料～2000円程度です。

国立がん研究センター
がん対策研究所
National Cancer Center
Institute for Cancer Control

このリーフレットは、国立がん研究センターがん対策研究所が作成した「子宮頸がんとその他のヒトパピローマウイルス（HPV）関連がんの予防」ファクトシート 2023を元にHPVと子宮頸がんの予防についてまとめたものです。

リーフレットの作成は国立がん研究センター研究開発費2023-A-23「がんの疾病負荷軽減に寄与すると思われる新たな対策の効果推定」（研究代表者：十川佳代）で行いました。

ファクトシート
2023

厚生労働省サイト
（子宮頸がんとHPVワクチン）

2023.10